

11

NPO法人佐賀学生スーパーネット

佐賀市三瀬



みんなに知ってほしい
中山間地域のこと、そして未来

キッカケ

少子高齢化が進み、後継者不足の中山間地域の課題に、大学生の視点で関わっているNPO法人佐賀学生スーパーネット。農業分野のボランティア活動として、豊かな自然に囲まれた佐賀市三瀬村で竹林伐採や農業支援などを行っています。なぜ山の竹を伐採しなければいけないのか、どうすれば伐採した竹を資源として活用できるのか。現地に足を運ぶことで、つきつけられた課題と向き合い、考えながらアクションを起こしていく学生たち。その活動は、新しいメンバーにバトンタッチしながら20年以上続いています。



組織概要

佐賀大学生を中心に活動しているNPO法人佐賀学生スーパーネット。令和6年度の部員数は農学部を中心に28名。平成15年の発足で、主に「農業・環境・教育」の3分野を中心にボランティア活動をしています。ふれあい農業事業部では、中山間地域で竹林伐採などを実施。PBR(ペットボトルリサイクル)事業部では、回収したペットボトルキャップを世界の子どもたちのワクチン費用として寄付。キャリア教育事業部では、佐賀市内の小中学生の教育支援を行い、公民館で様々な世代が交流できるイベントを企画・運営しています。



中山間地域での挑戦



● 環境保全のために竹林を伐採

竹は根を浅くはり、放置竹林では地滑りを起こしやすいので土砂災害を防ぐために適正な管理が必要。繁殖力が強いため年に数回、学生たちが三瀬村の竹林に入って伐採作業を実施。令和6年度は、県の森林指導員を招いたうえで、龍谷中学校の生徒たちと伐採体験を行った。

● 伐採した竹の活用で佐賀大学祭に初出店

伐採した竹を活用するため、竹細工ワークショップを佐賀大学祭に初出店。一つひとつ手づくりした竹のパーツを組み立てて、スマホスタンドなどを制作。楽しい体験を通して、学生や子どもたちに中山間地域の竹林の状況について周知。

つながり

三瀬村での竹林伐採は、学生と地域が関わるフィールドワークのようなもの。「重機が入れない竹林では、人が手作業するしかなく、かなりの力仕事になります」。「高齢の方だと伐採した竹を運搬するのが難しい」。「中山間地域」や「耕作放棄地」という言葉は知っていても、現地に足を運んだからこそ実感できることがたくさんあります。学生たちの体験の場になればと、竹林を提供しているのは農家カフェを営む小野寺さん夫妻。「山や自然を楽しむ時間も作ってほしい。やりたいことを提案してもらったら、できるだけサポートしたい」と、これまでもこれからも応援を続けます。

耕す未来

団体としての活動は20年を超えるものの、大学生だからこそ代表者やメンバーの顔触れが年々変わり、活動内容も変わります。「令和6年度は、中学生と一緒に伐採作業をしたり、大学祭に出店したり、周りを巻き込む活動が多かったです」。中山間地域の課題や竹を伐採することの大切さを、少しでも身近なものとして感じてもらうと参加型のイベントやワークショップを企画。「大学祭に出店するノウハウもできました。今後も外部の人を巻き込みながら、中山間地域のことをたくさんの人に知ってもらえるような活動を」と後輩たちにエールを送ります。

大坪 明日香さん

